



平成 28 年 4 月 27 日

環 境 政 策 局

担当：循環型社会推進部ごみ減量推進課

TEL：2 1 3 - 4 9 3 0

市民・事業者の行動場面別ごみ減量メニューの策定に向けて（提言）

～ごみ半減をめざす「しまつのこころ条例」の具体的推進～

京都市では、ごみ半減をめざす「しまつのこころ条例」（「京都市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例」の愛称。以下「条例」という。）及びこれを具体化した「新・京都市ごみ半減プラン」を一層推進するための具体的方策について、市民、事業者、学識経験者等で構成される「京都市廃棄物減量等推進審議会」（以下「審議会」という。）及び審議会の下に設置した「循環型社会・ごみ半減をめざす 条例・プラン推進部会」（以下「部会」という。）において御議論いただきながら、検討してきました。

この度、現時点での検討結果をとりまとめた「市民・事業者の行動場面別ごみ減量メニューの策定に向けて」の提言が審議会から提出されましたので、お知らせします。

1 提言のポイント（別添資料）市民・事業者の行動場面別ごみ減量メニューの策定に向けて（提言） 参照

（１）場面（分野）ごとに重点的に取り組むべき主な具体的メニュー

■ 暮らし（買い物・食事を中心に）

家庭ごみの減量を一層促進するために、「食品ロス」、「レジ袋」、「乾電池」を中心に、買い物と食事、分別・リサイクルのポイントとなる取組を推進する。

■ 高齢者入所施設（老人ホーム等）

食品ロスの排出実態と、高齢化の進展を見据え、２Ｒの取組を推進するとともに、分別・リサイクルの可能性についても検討する。

■ 宴会

食品ロスの排出実態、印象に残りやすい特徴的な場面であることを踏まえ、２Ｒの取組を推進する。

■ 観光

食品ロスの排出実態、観光客の動向を踏まえ、宿泊施設、修学旅行、土産物の製造・販売・購入に関する２Ｒの取組を推進する。

（２）メニューの実践を促す市の主な取組

■ しまつのこころ

- ・ 取組メニューを、例えば「京のしまつの心得」＜〇〇編＞（〇〇：観光、宴会、暮らし）などの形で市内外に発信していくなど、京都らしさ（京の食文化や急須の文化など）を醸し出しつつ、印象に残る発信を行っていく必要がある。

■ ICT（情報通信技術）の活用

- ・ スマートフォンのアプリなどのICTを活用することにより、「楽しさ」や「便利さ」などの切り口から、ごみの減量に誘導するような工夫が必要である。

■ 高齢者入所施設（老人ホーム等）

- ・ 2Rと分別・リサイクルの実態を把握するための調査や、モデル的な分別・リサイクルの取組を行う必要がある。

■ 修学旅行

- ・ アメニティグッズの削減やマイバッグの持参などに取り組んでいただくよう、修学旅行に関するホームページや学校を通じた働きかけを行うとともに、
- ・ 修学旅行生に、京都の取組をPRするエコグッズを提供するなど、地元での発信に繋がる取組も効果的であると考えられる。

■ 効果の検討、検証、見える化

- ・ ごみ減量メニューの実践により、具体的にどのような効果がもたらされるのかを検討（推定）し、その効果を実際に検証するとともに、効果の見える化を図り、市民・事業者の取組の促進に繋げていくことが必要である。

2 今後の進め方

平成28年度から、提言に掲げられた具体的方策を実施するとともに、継続課題について、審議会及び部会で御審議いただきながら、引き続き検討してまいります。

<別添資料> 市民・事業者の行動場面別ごみ減量メニューの策定に向けて（提言）

（参考）審議会及び部会における審議経過

時 期	内 容
平成27年 8月 3日	【第57回審議会】 ・ 部会の設置 ・ 食品ロス削減等の市民・事業者の行動場面別ごみ減量メニューの検討
平成28年 1月15日	【第1回部会】 ・ 食品ロス削減等の市民・事業者の行動場面別ごみ減量メニューの検討
3月 4日	【第2回部会】 ・ 市民・事業者の行動場面別ごみ減量メニューの策定に向けて（提言）（案）
3月24日	【第58回審議会】 ・ 市民・事業者の行動場面別ごみ減量メニューの策定に向けて（提言）（案）